

C 次の文章を読んで、問題15～問題20に答えなさい。(配点五十)

この部分は、著作権上の都合により公開できません。

この部分は、著作権上の都合
により公開できません。

この部分は、著作権上の都合により公開できません。

問題15 傍線部A～Cのカタカナを漢字に直した場合、正しい組合せとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点六)

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| A | A | A | A | A |
| 意 | 位 | 意 | 威 | 威 |
| B | B | B | B | B |
| 帯 | 待 | 態 | 態 | 帯 |
| C | C | C | C | C |
| 明 | 名 | 迷 | 明 | 名 |

問題16 傍線部(A)「世界を内的に理解」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点十)

- ① 昔のことをまざまざと思い出して世界を理解すること。
- ② 人間がそこに住んでいる世界を客観的に理解すること。
- ③ 人間が世界の奥に潜んでいる本質を正しく理解すること。
- ④ われわれが自分の記憶を頼りに世界を理解すること。
- ⑤ われわれの心が世界をどう見ているかを理解すること。

問題17 傍線部(I)「ヴァン・デン・ベルクも例外ではない」とあるが、その具体的な説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点十)

- ① ヴァン・デン・ベルクも、客観的な世界視線から実存的な世界視線への視線変更の必要性和目的を説明できていない。
- ② ヴァン・デン・ベルクも、現象学の方法がわれわれの客観的な世界視線を判断停止する事にあるという点を見逃している。
- ③ ヴァン・デン・ベルクも、生きられた世界の内部に入り込むということの具体的な内実を説明できていない。
- ④ ヴァン・デン・ベルクも、実存の世界視線と客観化の世界視線の二重性が人間の世界像の基礎であることが理解できていない。
- ⑤ ヴァン・デン・ベルクも、現象学の方法がわれわれの客観的な世界視線だけを残すような視線変更を行うことにあるということを見逃している。

問題18 空欄 I に入れるのに適当な語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点七)

- ① 一般的
- ② 必然的
- ③ 主観的
- ④ 客観的
- ⑤ 創造的

問題19 空欄Ⅱに入れるのに適当な語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点七)

- ① ところが
- ② だから
- ③ さらに
- ④ たとえば
- ⑤ また

問題20 問題文の内容と合致するものとして、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。(配点十)

- ① ヴァン・デン・ベルクが述べているように、現象学者は人間がそこに住んでいる世界を理解することを目的としており、こうした現象学の要の部分を得得るためには子供時代のことを思い出す必要がある。
- ② セザンヌは静物の絵を描く際に、光学的な事実を無視して、世界を客観的な視点ではなく実在的な視点で見えており、この意味で現象学のエッセンスを捉えた先駆者だといえる。
- ③ 自分からの視点と客観的な観点は誰でも基本的に持っている二重の観点であるが、客観的な観点を捨て去ってしまうと、自分の世界の中に閉じ込められ、自分の生という世界から抜け出せなくなる。
- ④ 現象学の一般的定型によれば、われわれにとって自明になりすぎている世界のあり方を、客観的かつ厳密に基礎づけ、世界の意味を深く教えるのが現象学ということになる。
- ⑤ 近代哲学の方法が観念論という方法を取ったのは、近代の最大の問題が認識の可能性の原理ということにあったからであり、フッサールの現象学はこの点の深い自覚の上に築かれている。